

第 30 回長野市公共施設適正化検討委員会 議事要旨 (案)

開催日時	平成 30 年 6 月 21 日 (木) 15:00~17:00
場 所	長野市役所第二庁舎 10 階 会議室 202
出席者	<p>[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、西村委員、西堀委員</p> <p>[事務局 (公共施設マネジメント推進課)]</p> <p>倉石総務部長、望月公有財産活用局長、村上公共施設マネジメント推進課長、柳澤公共施設マネジメント推進課長補佐、金子公共施設マネジメント推進課係長、小林公共施設マネジメント推進課係長、渡辺公共施設マネジメント推進課係長、小川公共施設マネジメント推進課主査</p> <p>[商工観光部] 藤橋観光振興課長</p> <p>[文化スポーツ振興部] 丸山スポーツ課長補佐</p> <p>[保健福祉部] 海沼高齢者活躍支援課長</p> <p>[長野市保健所] 竹村健康課長</p>
議 事	<p>(1) 個別施設の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民プールの現状について</li> <li>・松代荘周辺施設整備について ほか</li> </ul> <p>(2) 公共施設マネジメント推進について</p> <p>(3) 公共施設 (建物) の現状公表について</p> <p>(4) 個別施設計画の策定方針について</p> <p>(5) その他</p>

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 事務局自己紹介
- 4 議 事

【審議事項】

- (1) 個別施設の状況について
    - ・市民プールの現状について
    - ・松代荘周辺施設整備について
  - (2) 公共施設マネジメント推進について
  - (3) 公共施設 (建物) の現状公表について
  - (4) 個別施設計画の策定方針について
  - (5) その他
- 5 閉 会

【開 会】

部長あいさつ

〔倉石総務部長からあいさつ〕

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

## 議 事

### (1) 個別施設の状況について

- ・市民プールの現状について
- ・松代荘周辺施設整備について

〔資料1-1～3について村上課長より説明〕

委 員 資料 1-3 の松代荘リニューアルイメージにある左上にある風呂は宿泊者専用なのか。

観光振興課 そのとおり、宿泊者専用であり、増築した部分の風呂になる。

委 員 長 施設再編にあたって経営等色々な面で地元住民の意向調査も行っているが、松代地区の地元とのソフト面での連携が見えてこない。単にハード面で松代荘をリニューアルするだけではなく、地元と協力して松代の観光資源も活かせるような企画を考えないのか。

観光振興課 保養健康増進と観光振興拠点の整備を目的にリニューアルを進めている。地元にはNPO など住民団体が多く活動しており、今までも協力を図ってきたが、リニューアルにあたり更に連携を強めたいと考えている。現在の指定管理者である長野市開発公社とも自主事業等で連携して行きたい。

委 員 長 施設中心にすればそういった考えになるが、地域の観光資源に目を向けた場合、受け皿が弱いのでは。

委 員 松代荘を訪れた人が、どうすれば松代の街の中まで来てくれるかが課題。観光と施設が切り離されている。松代荘を観光に結び付けるにはもう一歩踏み込む必要があるでは。長野市に温泉のイメージは無い。もの（観光資源）は持っているのだから、それらが上手く繋がるように考えなくては。多様な機能を持つ温泉施設は民間にもたくさんある。安価で入浴と宿泊が出来ることが松代荘の魅力でもあるので簡素でも良いのでは。

委 員 私は、松代地区に限定して考えることが間違っているのではと思う。全体的に長野市はどこを観光拠点にして、どうしていきたいのかということ。例えば、飯綱高原のアゼリアも観光拠点にしようと思えばできる可能性もある。施設があってもソフト面の仕掛け、工夫がなければ効果がない。ソフト面も平行して進めていくべき。  
松代荘の隣にある民間の温泉施設との連携はとれないのか。

観光振興課 現状において連携等はとっていない。

委 員 民間との考え方の違いもあり難しい面もあると思うが、もったいない。松代だけの財産としてではなく長野市の財産として広角的に考えて欲しい。

委 員 長 半官（公社）で経営する難しさもある。

委 員 街中の歴史文化施設と松代荘を、いかに有効的に一元化して結び付けるか、交通も含めた問題だが、離れているため松代荘と街中の観光資源との一体感が醸成できないジレンマもある。財政的にも厳しい中、特に松代荘のような施設は PPP/PFI 等あらゆるものを駆使してやっていく時期にきている。あり方を研究、厳選し、多角的に考えていけば、巨額な税金を投入するより、もっと軽微な投資で済んだのではないかという議論もあった。観光拠点として松代荘と街中の観光資源をどのように結び付けるか、行政が関わっていくべき。

また、飯綱高原の冬場からグリーンシーズンへのシフトチェンジにおいて、アゼイリア飯綱の役割は大きくなる。これからの需要を考えると、アゼイリアには相応の投資をしていかななくてはならない。最大限活用できるよう、周辺の観光施設と連携をとっていく考え方になる。松代荘も半官としてやっていくならば、今後は指定管理者として責任感、緊張感を持ってやってもらいたい。

委員長 地域と連携し、ここにしかない、泊まってでも行きたい、というものを造っていかないと、この先負担はさらに大きくなる。

委員 資料 1-1 にある市民プールの現況について、指定管理料等の収支の記載があるが、指定管理者は誰か。

スポーツ課 茶臼山と青垣はフクシ・エンタープライズ、他はシンコースポーツが行っている。信州新町は市（スポーツ課）の直営となっている。

委員 シンコースポーツはどこにある企業か。

スポーツ課 東京の企業である。

委員 資料にある支出とは、長野市が指定管理者に支払っている支出額ということでよいか。

スポーツ課 そのとおりである。

委員 収入（直営分）とあるが、直営分とは何か。

スポーツ課 信州新町は市のスポーツ課の直営であり、プールの利用料が収入である。

事務局 指定管理料は、水道料等を含む経費から収入を差引いた赤字分を支払っている。

委員 住民サービスとコストパフォーマンスの両立を図るために、どこまで市が負担するのかが大きな課題。近年の需要の傾向もあるが、利用度の減少から安易に公共施設を減らすことは、中山間地の住民にとって不便になるのでは。公共サービス施設の減少と中山間地の住民の両立をどう考えているのか。

事務局 プールに限らずということになるが、どこに注力していくか。施設が縮減しても、一定のサービスを提供していける施設を維持していくことが大切であり、これからはそこに投資していくべきと考えている。人口減少に伴い、税収も減少していく可能性が大きいことを考えると、コストの配分も考えていかなければならない。プールに限って言えば、今後、多額の維持管理経費が見込まれるため、整理していく必要がある。例えば、鬼無里は小中学校が連携した学校づくりが進められる中、プールのことも一緒に考えなければいけない。

委員 鬼無里は学校施設としてプールはあるのか。

事務局 鬼無里については学校にプールがないので、市民プールを学校プールとしても使用している。教育委員会とも調整していく。

委員 これからは公共施設の統廃合による、代替施設の提供が当面の課題になるのでは。現

状施設量は増えている。施設を統廃合するにあたり代替施設を示さなければ住民は納得しない。そのための準備もするべきでは。中山間地など、住民サービスとコストパフォーマンスのバランスを庁内横断的にきちんと議論していくべき。

委員 長 施設だけでなく、システムで機能を代替する考えもある。柔軟に対応しなければ、延床面積 20%削減の実現は難しい。

事務局 本日戴いたご意見も踏まえつつ、プールの再編計画を改めて示したい。

委員 学校教育のためのプールと市民の健康増進及び福祉のためのプールは分けて考えた方が良いのではないか。

## (2) 公共施設マネジメント推進について

### (3) 公共施設（建物）の現状公表について

#### (4) 個別施設計画の策定方針について

〔資料 2-1、2-2 について村上課長 資料 3-1、3-2 について小川主査  
資料 4-1、4-2 について渡辺係長より説明〕

委員 資料の説明があったが、やらなくてはいけないのはわかるが、出来るのだろうかというのが率直な意見。大変な作業だと思う。PDCA サイクルの中で、C のチェック機能とその後のフォローの弱さが行政では散見されるので、対処していただきたい。

委員 県や国には、逐一報告はしていくのか。

事務局 数字の報告は、今のところ求められていない。国からの指示で改訂したものについては、進捗状況を把握するという意味で報告していくことになると思う。

委員 バランスよく公共施設を減らすという目的で4年間やってきたが、結果的に4年前よりも施設数も面積も増えている。この現状をどう説明するのか。計画性のあるものだからと言っても、市民は納得しないのではないか。

また、数字の採り方が年度や建築年や会計年度でずれがある。基本的な目盛りだけはきちんと決めるべき。

事務局 建築年の関係は前回とは方法を変えたためであり、今後は今回の方法で行っていく。施設が増えたことに関しては、白書は庁舎や芸術館等、大きな投資をしている最中に作成したもので、致し方ない部分もあると思う。今回のこれを起点としていきたい。市民の皆さんの了承を得難い部分もあると思うが、マネジメントの理念に沿ってこれからも取り組んでいきたい。

委員 どんな理由があっても、数字だけで示してしまうと、市民からは納得してもらえない。そこはきちんとフォローしておいた方が良いのでは。今回のこれがスタートだと言っても市民は理解できない。

委員 長 マネジメントは企画段階から地域住民等と情報共有し、そこから問題提起をしてワークショップなどを開催するものだが、実施後のアンケート項目を見ると、ワークショップの本質がつかめていないように感じるが。

事務局 アンケート用紙は各地区共通である。ワークショップに参加しての感想や意見に対す

る設問を主に作成してある。具体的に地区の施設や事業について踏み込んだ設問ではないが、自由記載欄があるため、そこへご意見等自由に記載してもらっている。記入していただいた内容は、今後活かしていきたい。

今後のワークショップについては、ワークショップ形式にこだわらずに幅広く進めていくことを考えているが、ワークショップの参加者からは、マイナス意見も出ている。(ワークショップで提案したことが実現しない等。)マイナス意見が出ることは当然のことではあるが、柔軟に対応しながら、若干軌道修正していきたいと考えている。

企画段階から地区と考えるものであるが、どのような手法で行っても一長一短であり、公共施設マネジメントを前提に行うものなので、批判を受けるのはやむを得ないとも考えている。どういった方法が最適なのか地区ごとに相談して決め、地区に出向いて地域の皆様のマネジメントへの理解を深めていきたい。

委員 長 企画段階から地区と情報共有していかないと、他人事、丸投げの状態が終わってしまう。

事務局 ワークショップの中で、まず市の計画を示すことを求められることもあるが、そういった場ではないことを説明はしている。

委員 長 ワークショップは陳情の場ではない。

事務局 様々なご意見を受け止めて、今後につなげてまいりたい。

委員 長 ワークショップ形式で行うならば、取り上げたい課題や問題点等を、大まかに出してもらっても良いが、具体的にどのような目標で開催しているのか、住民の皆様に理解していただいた上で地区の問題を整理し協力してもらう必要がある。

事務局 アンケートだけではなく、討議した結果はグループごとに模造紙にまとめている。そこから課題や取り組むべき施設を浮き彫りになっていく。

委員 長 討議の結果は整理して、地域で参考にできるようにしているのか。

事務局 グループ討議したことを地域の皆様に知っていただくことは大切なので、結果をまとめたものは、地区に全戸回覧、または全戸配布している。

委員 資料 2-2 のアンケート結果について、分母が合わないのでは。

事務局 改めて確認させていただきたい。

委員 大岡地区の結果について、他の地区とは傾向が異なるようだがなぜなのか。

事務局 大岡地区は公共施設だけでなく‘小さな拠点作り’も併せて行ったため、テーマの概念が伝わりにくかったこともある。

アンケート結果については、改めてお送りしたい。

委員 長 資料 4-1 の5ページにあるように、地区ごとに施設を表で示してあると、地域の課題を整理する時にわかりやすく良い。また、施設を分類して記載してあると、先の見通しも立てやすい。資料も少なくなくて済むので、地域での話し合いでも扱いやすいのでは。

委員 先進地域がどうなっていったか、進む段階も記載していけば、他の地区が見た時にも刺激になる。

委員長 工夫していけば、自分たちの位置もわかりやすく、整理しやすい、良いものになると思う。

委員 プールの採算性の話を聞いていると、スパイラルの問題を思い出す。新しい施設を残して他を統廃合するだけではなく、地域単位で考えてはどうか。例えば、屋外市民プールの平日は利用が少なく土日は地域の子供が利用するのであれば、プールは地域の学校のものと考えては。そうなると、指定管理から直営になるのではないか。施設が空く時間をなくすようにし、複合的に使うことを考えたほうが良い。学校から市民プールへバスを運用するほうが、学校にプールを作るよりも費用は掛からない。

先日の大阪地震のブロック塀の事故のように、危険の可能性があるものは学校にない方が良い。さまざま問題もあるかと思うが、庁内各課でも歩み寄って、すり合せていてほしい。

委員長 複合化・民営化なども含め、柔軟に、一番良い方法でやっていてもらいたい。

委員 青垣市民プールのように郊外でも利用人数が多いところを見ると、市街地の施設を減らし、人や車が郊外に流れるようにしていくことができるのではないか。

委員長 青垣は他のプールとは違い、整備された、レジャー施設が充実している。一方、年中利用できるフィットネス施設等もあるが、入場料が高く、利用者が少ないプールもある。せっかく造ったのだから、如何に利用しやすくするか、子供たちも使えるようにもっと柔軟に考えて欲しい。

委員 指定管理者はそれを事業にしている県外の会社が多い。指定管理は地元の会社に参加してもらおうべき。地元の会社側に知識を植え込んで、地域参加型の指定管理にした方が良い。1つの会社ではなく、複数の会社で複合体となって受けるような指導を、市にはしてもらいたい。安易に指定管理にするのはよくない。指定管理にすることで、行政サービスのコストも上がる。観光施設などは、やるなら民間に任せてしまえば良い。

【閉 会】